

# 宝塚市産業振興ビジョン（骨子案）

令和元年 11 月 宝塚市

## 1. はじめに

### （1）目的

○人口減少時代及び少子化・高齢化社会の到来や、厳しい経済社会状況の中、産業の持続的発展を促し、地域経済の活性化及び雇用の促進を図り、もって産業と地域社会が調和した豊かで質の高い市民生活を実現するため、宝塚市産業振興ビジョンを策定します。

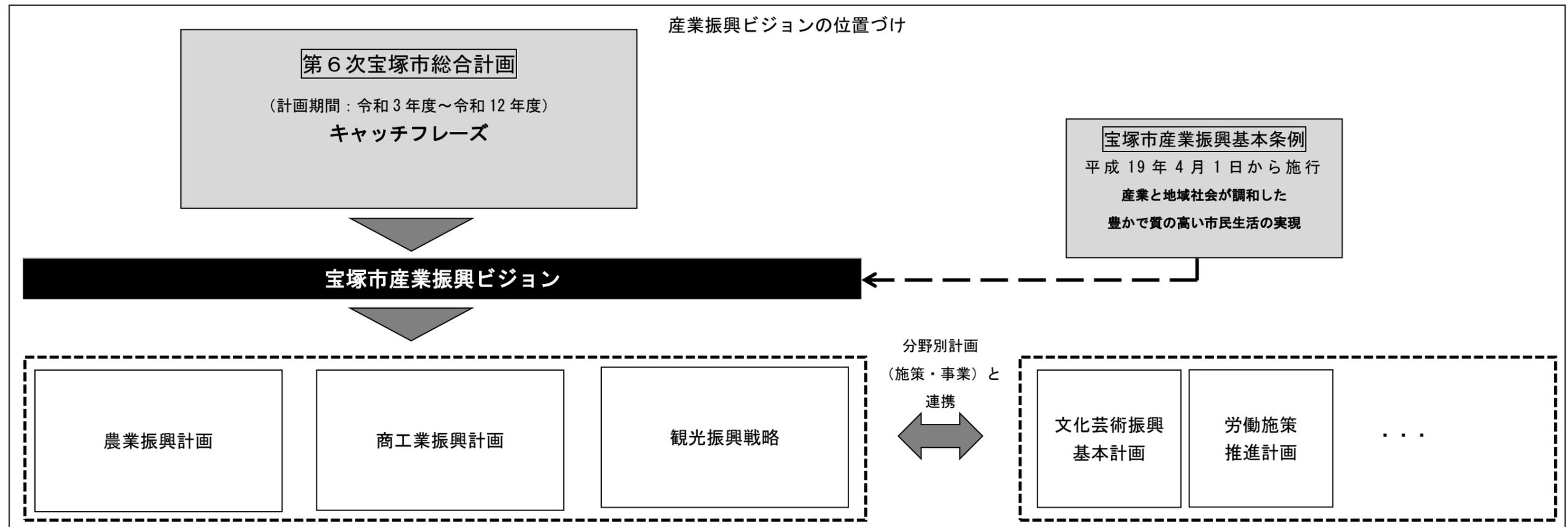
### （2）目標年次

○令和 12 年度までの 10 年間の目標年次とします。

### （3）位置づけ

○「第 6 次宝塚市総合計画」及び「宝塚市産業振興基本条例」のもと、産業全体の重点的な施策・事業を絞り込むための「ビジョン」として位置づけます。

○産業関連個別計画（農業振興計画、商工業振興計画、観光振興戦略）に共通する、宝塚市産業振興に係る上位の基本的考え方を示したビジョンです。



## 2. 宝塚市産業の現状（統計データの分析・庁内ヒアリング調査の分析等）

## 全国のトレンド

## (1) 地方創生

- 国全体で人口減少と少子高齢化が進み、また東京への人口の一極集中が進む中、地方を含む国全体の活力を維持・拡大するため、地方創生に取り組んでいる。
- 地方への移住・定住促進とあわせて、働き方改革や、一億総活躍社会の実現等が進められている。

## (2) 持続可能な開発目標（SDGs）

- 持続可能な社会を実現するため、発展途上国のみならず、先進国も取り組むユニバーサル（普遍的）な開発目標で、日本においては、「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者をめざす。」のビジョンのもと、国内実施と国際協力の両面で国際社会をリードしていくとしている。また、地方自治体におけるSDGsの達成に向けた取組は、地方創生の実現に資するものとし、その取組を推進している。

## (3) 人間中心の社会（Society5.0）

- AI、IoT、ロボット、ビッグデータ等の先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、格差なく、多様なニーズにきめ細かに対応したモノやサービスを提供することで、「経済発展」と「社会的課題」の解決を両立する人間中心の社会を目指している。

## (4) 観光・スポーツ・文化

- 観光、スポーツ、文化芸術といった地域資源は、効果的に活用することによって、交流人口や民間投資の拡大、雇用機会の創出等に結びつき、全国各地に大きな波及効果をもたらす、地域経済の好循環につながる可能性がある。
- 特に文化芸術については、本質的価値とあわせて社会的・経済的価値の活用・循環が期待され、国内外で文化芸術創造都市に取り組む自治体が増えている。

## &lt;本市の全体的なトレンド&gt;

## (1) 人口

- ①平成24年の228,235人（推計人口）をピークに、人口減少が進行する。
- ②年少人口、生産年齢人口が減少する一方、老年人口は四半世紀後も増加。高齢単身世帯も増加傾向。
- ③平成26年から平成30年までの5年間で0.54%の社会増であるが、対して自然減が0.65%と上回っている。

## (2) 事業所・従業者数

- ①平成25年の地域経済循環率は63.8%。地域外からの雇用者所得が流入しているが、地域外への民間消費額の流出も大きい。  
◆阪神間では川西市と並び、芦屋市に次いで2番目に低い。
- ②平成24年から平成28年の4年間で事業所数はどの業種も減少傾向であるが、従業者数は全体で0.3%増加しており、特に「製造業」で31%（1,064人）、「医療・福祉」で15%（1,543人）、「学術研究、専門技術サービス業」で23%（236人）増加している。
- ③平成28年の本市売上高（企業単位）は約5,401億円であり、事業所数147（全事業所数5,423）の製造業が約2,457億円で約46%を占めている。

## (3) 財政見通し

- ①令和5年までの5年間の財政見通しは、歳入計が横ばいの一方、歳出計は「扶助費」「公債費」が増加傾向にある。

## 今後の成り行き

- ①社会増（転入者が転出者を上回る）を維持しているものの、高齢化や自然減が今後も大きく進行し、本市の担い手（生産年齢人口）が減少すると考えられる。
- ②従業者数が増加している業種があるものの、従業員不足や事業承継問題が今後も進行し、黒字でも廃業する事業所が増加すると考えられる。
- ③近畿圏有数のベッドタウンとして市外で働く市民が多い（＝雇用者所得が流入）ものの、市内での民間消費は少なく、今後も地域内経済が循環しない。
- ④今後も市民税・法人税の増加は期待できない一方、扶助費等の増加が想定されるため、厳しい財政状況が続くことが考えられる。

## 農業の現状と課題

## 現状

- ・後継者不足による耕作放棄地増加の懸念がある。専業農家は少なく、後継者不足と高齢化が進展。  
◆農家のうち46.8%が農業以外（給与、年金、不動産等）を主たる収入とする第2種兼業農家である。
- ◆市として新規就農者の確保に努めているものの、農家総数は10年間で104戸減少している。

## 【北部市街化調整区域】

- ・平成27年までの10年間で人口が10%以上減少している。
- ・65歳以上が40.5%と市内他地域の中で最も高く、15歳未満及び15～64歳は最も低くなっており、次世代の農業の担い手不足が顕著である。（平成27年5月時点）
- ・土地利用規制の弾力化を図っているものの、活性化の実現には時間がかかる。

## 【南部市街化区域】

- ・住環境の変化による植木需要の減少や後継者不足が見受けられる。
- ・市内農作物等を活用した新たな事業者が誕生。

## 課題

- ①都市隣接の立地を生かした、新鮮野菜の販売拡大
- ②新規就農者の確保及び既存農家の事業継続・事業承継
- ③「生産緑地の2022年問題」を見据えた、南部地域を中心とする農地維持や周辺住宅地との調整
- ④宝塚ブランドを構成してきた「植木のまち」のイメージの再構築
- ⑤北部地域の定住人口増加や後継者の確保

## 商工業の現状と課題

## 現状

- ・近隣市と比べて製造業集積が少なく、阪神間では製造品出荷額（520億円）が芦屋市、猪名川町に次いで3番目に低い。
- ・市内各地に住工混在地区があり、近年は資本型・技術型の大工場の流出が相次ぐ。
- ・宅地開発圧力が高く、新たな企業誘致の余地は少ない。
- ・平成27年の小売業における人口一人あたり年間販売額は66.9万円であり、阪神間で最も低い。
- ・駅前再開発や市内進出の大型小売店が多い一方、西宮・伊丹・梅田等の大規模集客施設に消費がシフト。
- ・各駅に商業集積が行われた上に、マンション開発が進んだため、中心市街地の商業集積が不完全である。
- ・駅前再開発商業施設は核店舗の撤退や空き店舗増加による空洞化が問題。（不動産の所有と利用の分離が困難）
- ・新事業創出支援に取り組む民間のコワーキングスペース等が市内に誕生。

## 課題

- ①既存製造業の市外流出防止に向けた、住工混在地域の調整や従業者確保
- ②本市の事業環境に見合った新規事業者の誘致
- ③市内の買い物環境の向上や魅力ある店舗の増加による、地域内経済循環の促進
- ④駅前商店街などの中心市街地や、自然と調和した郊外も含む、宝塚の魅力創造
- ⑤コワーキングスペースなど民間による創業支援の促進による、新たな創業の機運向上

## 観光の現状と課題

## 現状

- ①観光客数約1,179万人（平成30年度）、内、宝塚北SAが310万人。宝塚ファミリーランド閉園以降、観光客数は実質的に増えていない。  
◆宝塚ファミリーランド閉園以降、観光客数は横ばい状況が続いている
- ◆神社仏閣・宝塚歌劇・ゴルフ場の集客力が強い
- ②豊富な観光資源と来訪者数に恵まれながら、地域経済への効果に生かせていない。  
◆神社仏閣・宝塚歌劇・ゴルフ場の集客力が強い
- ◆日帰り観光客の比率が高く、歌劇をはじめ単一目的の観光客が多い。
- ③近傍大都市圏で（大阪・京都）でインバウンド景気が好調ななか、本市でのインバウンドは低調。  
◆2013～2018の5年間、日本のインバウンドは約3倍に増加。  
◆一方、宝塚市では、約1.3倍
- ④本市の観光は、企業・神社仏閣・行政等、独自展開色が強い。
- ⑤元タカラジェンヌが案内する街あるきツアー、「モノ・コト・バ宝塚」の拡充など、市内資源のブラッシュアップが観光につながる可能性がある。

## 課題

- ①観光客数の増加や地域経済の好循環に向けた、豊富な観光資源の活用による新たな魅力の創出
- ②観光を本市の成長産業とするための、インバウンドの戦略的取組の推進
- ③持続的な観光振興を目指した、観光を担う各主体との連携促進

## 市内産業に共通する課題

①既存事業の収益性向上（モノ）  
本市で操業する農家、商工業者、観光事業者が稼ぐ力を強化し、今後も持続的に成長していくこと

②担い手や後継者の確保（ヒト）  
起業・第二創業を行う経営者や、事業所で働く従業員、産業を支える消費者（ファン）を確保・育成すること

③地域内経済循環の促進（カネ）  
産産連携や産学官連携の促進や民間消費の流出防止により、市内で循環する資金を増やすこと

④産業魅力の発信（情報）  
本市産業の魅力のブラッシュアップに取り組み、市民や消費者（ファン）に伝えること

⑤事業環境の整備（空間）  
空き地や空き店舗、道路・広場などの遊休地や未利用地の活用を促し、事業者の新たな事業を創造すること

## 3. 将来目標と方向性

